

設置計画の概要

事 項	記 入 欄	
事前相談事項	事前伺い	
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン トウキョウノウコウダイガク 国立大学法人 東京農工大学	
フリガナ大学の名称	トウキョウノウコウダイガク 東京農工大学(Tokyo University of Agriculture and Technology)	
新設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像	学部	<p>①工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎、専門知識・技術、専門性を発揮するために役立つ論理的思考力、表現力、多様性を受容する力や協働性を育む教養を学ぶ機会を提供する。主体性を持って人生を切り開いていくために必要な専門性と、人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察して判断し、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく表現することができる能力を有する人材を養成する。</p> <p>②1.工学系学部の卒業生に相応しい自然科学に関する基盤的学力を身につける。 2.各学問領域で求められる学識を身につけ、原理・原則に基づいた論理的思考と洞察する能力を備える。 3.使命志向の立場から、持続的な問題解決・研究開発を行う姿勢を身につける。 4.技術者、研究者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につける。</p>
	生命工学科	<p>①生命工学科は、生命に関連する科学技術全てを包含するため、極めて多彩な学問領域を取り扱います。これらの学問領域の基礎知識を網羅的に習得した上で、最先端の技術力、論理的な思考力・実行力および国際的コミュニケーション能力を身につけた、あらゆる生命工学分野のニーズに即応して活躍できる国際的な技術者・研究者を養成する。</p> <p>②1.分子の挙動に基づいた工学的総合領域である「生命工学」の関連領域(数学・物理学・化学・生物学・医工学・情報科学)の基礎を習得する。 2.生命工学の専門知識を習得するとともに、基礎知識に基づいて論理的に先端領域に対応する力を身につける。 3.生命工学に要求される社会的ニーズを理解し、持続的な社会発展に向けた問題設定および問題解決力・研究開発力を身につけ、自主的・継続的に学習する能力を習得する。 4.技術者、研究者として科学・技術にとどまらない倫理的、社会的およびグローバルな視点から「生命工学」の研究の意義を理解し、最新の技術情報とともに国内外に伝え、議論できる能力、他者と協働できる能力を身につける。 ③大学院への進学、民間企業(医薬品、食品関連メーカー、商社など)</p>
	生体医用システム工学科	<p>①生体医用システム工学科は、現代医療における計測・診断技術に必要な物理学や電子情報工学等を融合した形で体系的に学ぶことで、医療にかかわる工学技術と生物学・医学とを総合的かつ深く理解する能力を有し、従来の学問体系に捉われない柔軟な発想のもとに革新的な生体医用工学技術の研究開発を行うことができる人材を養成する。</p> <p>②1.現代医療における計測・診断技術の基本となる物理学や電子情報工学等に関する基礎学力・知識を習得する。 2.習得した基礎学力・知識を基にして、生体医療に係る工学技術を総合的に理解する能力を習得する。 3.複雑で多様な医療分野のニーズを理解し、従来の学問体系に捉われない柔軟な発想のもとに医療技術の研究開発を行う能力を身につける。 4.生体医用工学技術における工学分野と生物学・医学分野の学際的な橋渡しができ、同技術の国際的発展に貢献できるコミュニケーション能力と教養を身につける。 ③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(医療機器メーカー、精密機器、製造関連など)、ソフトウェア関連・計測分野の研究開発者・エンジニア</p>
	応用化学科	<p>①応用化学科は、現代社会を支える化学・材料科学領域における諸問題を理解し、解決するために、基礎力、応用力、創造力に立脚した高機能先端材料の創製を通して、最先端の化学が関連する広範な産業に貢献できる人材を養成する。</p> <p>②1.化学・材料科学の基礎となる化学・物理学・数学やその他の自然科学に関する基礎知識やそれらを応用する力、ならびにサイエンスの本質を深く理解する力を身につける。 2.物質を原子・分子レベルで理解、制御、応用するために必要な基礎学力、高機能先端材料を開発するための応用力、自らの知識や考えに基づき新しい物質や材料を創製する創造力を習得する。 3.物質・材料の機能や特性を原子・分子レベルからそれらの集合体レベルまで洞察する能力を有し、諸問題の解決に資する高機能先端材料の研究開発を可能とする創造的な研究力、展開力、情報発信能力を身につける。 4.国や専門分野の垣根を越えた多様な社会性や異文化の理解に通じる教養とともに、幅広い視野をもつ技術者・研究者として、国内外で必要となるコミュニケーション能力を身につける。 ③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(化学メーカー、電気機器メーカー、運送用機器メーカー、機械メーカー、石油・石炭製品、印刷・同関連業、鉄鋼業、通信業、窯業、食品、印刷・同関連業など)、化学分野の研究開発者・エンジニア、国・地方公共団体の技術者、中学校・高等学校の教員(理科)</p>
	化学物理工学科	<p>①化学物理工学科は、化学と物理の両方を総合的に学ぶことで、社会的ニーズが高まっているエネルギー・環境等のグローバルな課題に果敢に挑戦し、それらを解決できる実践力を涵養する。さらに、課題の全体像をシステムとして俯瞰し、ブレイクダウンし、さらに数理的に取り扱うことで課題の俯瞰・詳細化・最適化を行い、基本原理に立脚した要素技術・システムを提案し開発できる高度グローバルエンジニアを養成する。</p> <p>②1.化学・物理学の総合的学力を中心に、自然科学に関する基盤的学力を身につける。 2.エネルギー・環境などの地球規模の課題や、新産業創出の課題などの複合問題を解決するために、化学・物理学の総合的理解の深化を通じて、課題の俯瞰・詳細化・最適化を行い、さらに基本原理に立脚した要素技術の提案・開発をシステムとして実現しうる研究領域の学識を身につけ、原理・原則に基づいた論理的思考と洞察する能力を備える。 3.使命志向の立場から、技術者として社会に対する責任を自覚し、経済性、安全性、社会及び環境への影響等を多面的に考慮しながら、対象の本質を理解し、解決すべき工学的課題を自覚し、創造的に解決できる能力を身につける。 4.高度グローバルエンジニアとして主体的に活躍できるよう、国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につける。 ③大学院への進学、民間企業(製造業関連:化学・薬品・化粧品・食品メーカー、機械・プラントメーカー、電子・電気機器メーカー、自動車・輸送用機器メーカー、精密・医療機器メーカーなど、電気・ガス関連、運輸・通信業関連、建設業関連など)、国・地方公共団体の技術者、大学など研究機関、中学校・高等学校の教員(理科、数学)</p>

機械システム工学科	<p>①機械システム工学科は、機械システム工学の発展と革新を通じて、持続可能なスマートな社会を実現し、人類のフロンティアを開拓するイノベーション人材を育成する。数学・物理を基盤として機械システム工学全般に係る基盤教育を推進するとともに、機械物理学と知能情報技術等の先端知識や、分野横断的な知を融合した専門教育を実施する。知的好奇心、洞察力と創造力、社会性と倫理観、課題解決力、語学力と国際性を発揮して世界で活躍する技術者を養成する。</p> <p>②1.数学・物理学を中心に、工学系学部の卒業生に相応しい自然科学および応用数学に関する基盤的学力を身につける。</p> <p>2.機械工学全般に関する基盤的な知識を身につけた上で、さらに「航空宇宙・機械科学コース」、「ロボティクス・知能機械デザインコース」とより専門化された領域における学識を習得する。</p> <p>3.情報技術と機械設計に関する十分な理解と実践力を身につける。それを活用し、人類が直面する諸課題について、機械工学的な観点から多面的に観察し、自ら計画を立て、実験的・数理的なアプローチにより解析を行い、その結果を適切にまとめられること。その集大成として、機械工学の先端技術とその基盤となる理工学に対して新たな知見をもたらす研究内容を備えた論文を作成できること。</p> <p>4.国際社会において様々な分野の人々と協同するのに必要な語学力と、社会や文化、倫理などに関する教養、センスと理解力、これらの総体としてのコミュニケーション能力、発信力を身につける。</p> <p>③大学院への進学、民間企業(自動車メーカー、電気機械メーカー、精密機械メーカーなど)、公務員</p>
知能情報システム工学科	<p>①知能情報システム工学科は、人間と親和性の高い知的な情報システムの創出ならびに次世代の情報社会の基盤となる高度情報システムの構築に必要な教育研究を行う。コンピュータのしくみやプログラミングなど情報工学の基礎から最新の人工知能まで、知能情報システム工学の専門技術を幅広く習得し、現代社会が抱える諸問題の解決に貢献する高度ITイノベーション人材を養成する。</p> <p>②1.工学者の基礎となる、数学・物理学などの自然科学に関する基礎学力を習得する。</p> <p>2.1)知能情報システム工学の専門家としての高度な情報技術と、数理情報工学、電子情報工学の基礎理論を確実に身につける。</p> <p>2)知能情報システム工学の専門知識に基づいた論理的思考力を身につける。</p> <p>3.1)知能情報システム工学技術を社会の諸問題に適用して解決しようとする姿勢を身につける。</p> <p>2)知能情報システム工学の発展に寄与する創造的な研究開発を行う姿勢を身につける。</p> <p>4.国内外で様々な人々と協働できる技術者となるために必要なコミュニケーション能力と教養を身につける。</p> <p>③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(電機メーカー、情報通信、ソフトウェア、精密機器、輸送・建設機械、エネルギー関連、など)、ICT・エネルギー関連・分野の研究開発者・エンジニア、国・地方公共団体の技術者、中学校・高等学校の教員(数学)</p>
学部	<p>①工学分野の科学技術に関する基礎及び専門的知識・技術を教授し、解決すべき諸問題の本質を見抜く能力の涵養とそれらを持続可能な社会の実現に生かすことのできる幅広い教養と専門知識を有する人材を養成する。</p> <p>②1.工学系学部の卒業生に相応しい自然科学に関する基盤的学力を身につける。</p> <p>2.各学科で求められる研究領域の学識を身につけ、原理・原則に基づいた論理的思考と洞察する能力を備える。</p> <p>3.使命感の立場から、持続的な問題解決・研究開発を行う姿勢を身につける。</p> <p>4.技術者、研究者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につける。</p>
生命工学科	<p>①最先端の生命工学分野において、研究者・専門技術者・職業人として社会のニーズに即応しながら中核で活躍できる人材を養成するための基礎教育を行う。また物事を論理的に思考する能力を養い、国内外での学会発表等におけるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>②1.専門知識のベースとなる関連領域(数学・物理学・化学・生物学・情報)の基礎を習得する。</p> <p>2.分子の挙動に基づいた工学的総合技術である「生命工学」の専門知識を習得するとともに、原理原則に基づいて論理的に先端領域に対応するための力を身につける。</p> <p>3.生命工学に要求される社会的ニーズを理解し、持続的な社会発展に向けた問題解決および研究デザイン能力・研究開発姿勢を身につけ、自主的・継続的に学習する能力を習得する。</p> <p>4.社会や倫理など科学・技術にとどまらない多様な観点、地球的視点から「生命工学」の研究の意義を理解し、最新の技術情報とともに国内外に伝え、議論できる能力、他者と協働できる能力を身につける。</p> <p>③大学院への進学、民間企業(医薬品、食品関連メーカー、商社など)、公務員</p>
応用分子化学科	<p>①自然、生命、環境、エネルギーに関連した諸問題を解決し発展させるため、これらを原子、分子レベルで理解し、制御し、応用する能力を持ち、最先端の化学の中で活躍できる基礎力と創造性を持つ人材を育成する。</p> <p>②1.化学を本質的に理解するのに必要な数学、情報技術、自然科学などの基礎知識とそれらを応用できる能力を身につける。</p> <p>2.物質を原子・分子レベルで理解、制御、応用するために必要な基礎化学の知識と能力を習得する。</p> <p>3-1.実践的な研究を実施するのに有用な先端化学分野の知識や先端機器の原理を理解し、それらを様々な問題解決に活用できる能力を身につける。</p> <p>3-2.独創的かつ論理的思考をもとに最先端分野の情報や実験機器などを活用して創造的な研究を実施し、情報発信する能力を身につける。</p> <p>4.幅広い視野を持つ技術者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につける。</p> <p>③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(化学メーカー、電気機器メーカー、運送用機器メーカー、機械メーカー、石油・石炭製品、印刷・同関連業、鉄鋼業、通信業、窯業、食品、印刷・同関連業など)、化学分野の研究開発者・エンジニア、中学校・高等学校の教員(理科)</p>
有機材料化学科	<p>①有機材料の本質を分子レベルおよび分子集合体レベルで洞察する能力を有し、高機能性と安全性・低環境負荷性の両立が可能な材料を自由に設計・合成・解析できる研究者および技術者を養成するために、化学を軸に物理学をも含めた材料科学指向の体系的な基礎・専門教育を行う。</p> <p>②1.有機材料化学の基礎となる化学・物理学・物理化学・数学などの自然科学系基礎科目と高分子化学などの専門科目との連携を重視した一貫性のあるカリキュラムを通じて知的好奇心を喚起し、体系的な基礎学力の向上を目指すとともに、サイエンスの本質を深く理解する力を身につける。</p> <p>2.有機・高分子化合物を中心とした材料に対するキーテクノロジーを将来に向けて継承することができる基盤力と、自らの知識や考え方を基にネオマテリアルを創製できる展開力を習得する。</p> <p>3.有機材料を原子レベルから分子集合体レベルまで洞察する能力を有し、有機材料の合成、構造解析、物性、機能設計、および環境に配慮した応用までを可能にする専門的知識を身につける。</p> <p>4.国や専門分野の垣根を越えた多様な社会性や異文化の理解などに通じる教養を身につけるとともに、様々な人達と協働できるコミュニケーション能力と教養を身につける。</p> <p>③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(化学メーカー、電気機器メーカー、運送用機器メーカー、機械メーカー、石油・石炭製品、印刷・同関連業、鉄鋼業、通信業、窯業、食品、印刷・同関連業など)、化学分野の研究開発者・エンジニア、国・地方公共団体の技術者、中学校・高等学校の教員(理科)</p>

既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像

<p>化学システム工学科</p>	<p>①化学工学の基礎から専門までの知識を幅広く修得させ、地球、環境、エネルギー、新素材、生命、情報、社会システム等をキーワードに、新しい化学システムを創造することができ、かつ国際的な視野で活躍ができるケミカルエンジニアを育成する。 ②1.課題の発見と解決:マクロな流体や粉体の挙動、熱・物質運動、分離を伴う反応装置・触媒等の開発・設計、より大きな物質・エネルギー変換システムとしての「プロセス」の開発・設計・運転までを見渡すことができ、各種技術・教育研究活動を推進する能力を身につける。 2.化学工学の能力と研究活動:原理・原則に基づいた論理的思考と経験的直観力をもとに現象を把握しモデル化して設計に至るまでの自らの考えを論理的に記述し、分かりやすく表現し、国際的な社会に対して伝達する能力を身につける。 3.論理的思考と国際対応:使命志向の立場から知識・技術を身につけ、持続的な問題解決や研究開発ができる能力を身につける。 4.使命志向型問題解決能力:技術者として社会に対する責任を自覚し、経済性、安全性、社会及び環境への影響等を多面的に考慮しながら、対象の本質を理解し、解決すべき工学的課題を自覚し、創造的に解決できる能力を身につける。 ③大学院への進学、民間企業(製造業関連:化学・薬品・化粧品・食品メーカー、機械・プラントメーカー、電子・電気機器メーカー、自動車・輸送用機器メーカー、精密・医療機器メーカーなど、電気・ガス関連、運輸・通信業関連、建設業関連など)、国・地方公共団体の技術者、大学など研究機関、中学校・高等学校の教員(理科、数学)</p>
<p>機械システム工学科</p>	<p>①環境と調和し時代を超える“Unique & Best”なハイパーマシンを創造する人材を育成すべく、数学・物理を基礎として機械工学全般にわたる基盤教育を推進する。知的好奇心、洞察力と創造力、社会性と倫理観、経営センス、語学力と国際性を発揮して世界で活躍する技術者を理想像とする。 ②1.数学・物理学を中心に、工学系学部の卒業生に相応しい自然科学に関する基盤的学力を身につける。 2.機械工学全般に関する基盤的な知識を身につけた上で、さらに「航空宇宙エネルギーコース」、「車両制御ロボットコース」とより専門化された領域における学識を習得する。 3.与えられた研究テーマについて、自ら計画を立て、実験・解析を行い、考察・議論できるような能力(知的好奇心、洞察力、想像力)を身につける。その集大成として、機械工学の先端技術とその基盤となる理工学に関して新たな知見をもたらす研究内容を備えた卒業論文を作成できること。 4.国際社会において様々な分野の人々と協働できるエンジニアとなるために、必要なコミュニケーション能力(語学力)と、社会や文化、倫理などに関する教養、センスと理解力を身につける。 ③大学院への進学、民間企業(自動車メーカー、電気機械メーカー、精密機械メーカーなど)、公務員</p>
<p>物理システム工学科</p>	<p>①物理学を基礎から体系的に学び、その基本原理を習得するとともに、論理的思考能力を培うことで、多様化し複雑化する工学的課題に対して、物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決の方策を実践的に展開させる能力を持つ人材の養成を目的とする。 ②1-1.物理学および数学を中心に自然科学関連の基礎知識を習得する。 1-2.多様かつ複雑な工学的な課題に対して、客観的なデータに基づき、論理的に推論を進めて結論を導くための能力(学習力、分析力)を身につける。 2-1.力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、物理数学など物理学の基礎を体系的に理解し、その基本原理を身につける。 2-2.物理システム工学を展開する際に必要となる技術、スキルを身につける。 2-3.多様かつ複雑な工学的な課題に対して、物理学的な視点・方法から問題を発見・分析するのに必要な専門知識を身につける。 3.既成の枠にとどまらず、多分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力(企画設計力、論理的発信力)を身につける。 4.分野を問わず広く社会で直面する課題を、実践的に解決するのに基礎となる教養を身につける。 ③大学院への進学、民間企業(製造業関連:精密・医療機器メーカー、自動車・輸送用機器メーカー、電子・電気機器メーカー、化学・薬品・化粧品・食品メーカー、機械・プラントメーカーなど、運輸・通信業関連、電気・ガス関連、建設業関連など)、国・地方公共団体の技術者、大学など研究機関、中学校・高等学校の教員(理科、数学)</p>
<p>電気電子工学科</p>	<p>①現代社会の持続的発展に不可欠な電気電子工学分野の基盤技術を支え、国際的に産業技術の進展に貢献できる人材を養成することを教育の目的とする。そのために、新しい素子・材料の創出をベースとした先端的な電気電子システムの構築、並びに、人間・環境と機械の間の情報交換をおこなうための電子メディア技術の創出に必要な教育研究を行う。 ②1.電気電子工学の基礎を理解するのに必要な数学・物理学・化学・地学・生物学などの自然科学の基礎的能力を習得する。 2-1.電気電子工学に関する基盤的な知識を体系的に習得する。 2-2.先端的なシステムエレクトロニクスの構築や電子情報通信技術の創出に必要な専門知識とその活用能力を身につける。 2-3.電気電子工学の本質的理解および発展に欠かせない実験・解析スキルを体系的に習得する。 3.電気電子工学に関する問題を創造的に解決できるような調査力および議論能力を身につける。 4-1.国際的に産業技術の発展に貢献できるだけのコミュニケーション能力とスキルを身につける。 4-2.自らの考え方を論理的に記述し国際社会に対して分かりやすく伝達する能力を身につける。 4-3.国際社会において、様々な人々と協調できるコミュニケーション能力と一般教養を身につける。 ③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(電機メーカー、情報通信、ソフトウェア、精密機器、輸送・建設機械、エネルギー関連など)、ICT・エネルギー関連・分野の研究開発者・エンジニア、国・地方公共団体の技術者、中学校・高等学校の教員(数学・理科)</p>
<p>情報工学科</p>	<p>①実験や演習を通して「作」ることを経験し、新しい情報システムを「創」り出し、さらに「造」りあげる誇りと喜びを見い出しつつ、《創・造・作》の修得を目的とする。この理念に基づき、計算機の動作原理から最先端技術の実現方式に至るまで把握でき、研究者・技術者として第一線で活躍できる人材を養成する。 ②1.工学者としての基礎となる、数学を中心とした自然科学に関する基礎学力・知識を習得する。 2-1.情報工学の専門家としての基礎をなす、コンピュータ科学・コンピュータ工学の基礎理論を身につける。 2-2.新たな情報技術やシステムを自律的に考案・設計・開発するために必要な専門知識を身につける。 3-1.理論に基づいて情報システムを設計し動作させ、その結果を分析して改善する実践的能力を身につける。 3-2.情報工学の発展に寄与する創造的な研究を行う能力を身につける。 4.国内外で様々な人々と協働できる技術者となるために必要なコミュニケーション能力と教養を身につける。 ③大学院への進学、大学など研究機関、民間企業(電機メーカー、情報通信、ソフトウェア、精密機器など)、ICT関連・分野の研究開発者・エンジニア、国・地方公共団体の技術者、中学校・高等学校の教員(数学)</p>

新設学部等において
取得可能な資格

【生命工学科】

- ・中学・高校教員1種(理科)
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要
- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

【生体医用システム工学科】

- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

【応用化学科】

- ・中学・高校教員1種(理科)
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要
- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

【化学物理工学科】

- ・中学・高校教員1種(理科・数学)
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要
- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

【機械システム工学科】

【機械システム工学科】

- ・中学・高校教員1種(理科)
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要
- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

【知能情報システム工学科】

- ・中学・高校教員1種(数学), 高校教員一種(情報)
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要
- ・学芸員資格
 - ① 国家資格, ② 資格取得可能
 - ③ 学芸員関連科目の履修が必要

<p>既設学部等において 取得可能な資格</p>	<p>【生命工学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p> <p>【応用分子化学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p> <p>【有機材料化学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p> <p>【化学システム工学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要 ・化学工学修習士 ① 化学工学会認定資格, ② 関連科目取得可能</p> <p>【機械システム工学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p> <p>【物理システム工学科】 ・中学・高校教員1種(理科・数学) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p> <p>【電気電子工学科】 ・中学・高校教員1種(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要 ・電気主任技術者 ① 国家資格, ② 所定科目取得可能</p> <p>【情報工学科】 ・中学・高校教員1種(数学), 高校教員一種(情報) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要 ・学芸員資格 ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 学芸員関連科目の履修が必要</p>
------------------------------	---

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授	
工学部 [Faculty of Engineering]	生命工学科 [Department of Biotechnology and Life Science]	4	81	3年次 11	346	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	生命工学科	30	9
									計	30	9
	生体医用システム工学科 [Department of Biomedical Engineering]	4	56	3年次 6	236	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	機械システム工学科	2	1
									物理システム工学科	9	3
									電気電子工学科	5	3
								計	16	7	
応用化学科 [Department of Applied Chemistry]	4	81	3年次 10	344	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	応用分子化学科	14	5	
								有機材料化学科	17	7	
								計	31	12	
化学物理工学科 [Department of Applied Physics and Chemical Engineering]	4	81	3年次 7	338	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	化学システム工学科	17	7	
								機械システム工学科	2	1	
								物理システム工学科	10	4	
								電気電子工学科	3	1	
								計	32	13	
機械システム工学科 [Department of Mechanical Systems Engineering]	4	102	3年次 16	440	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	生命工学科	3	2	
								機械システム工学科	31	13	
								計	34	15	
知能情報システム工学科 [Department of Electrical Engineering and Computer Science]	4	120	3年次 20	520	学士(工学)	工学関係	平成31年 4月 3年次 平成33年 4月	電気電子工学科	22	7	
								情報工学科	25	9	
								計	47	16	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授	
工学部	生命工学科(廃止)	4	77	3年次 11	330	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	生命工学科	30	9
									機械システム工学科	3	2
									計	33	11
	応用分子化学科(廃止)	4	46	3年次 5	194	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	応用化学科	14	5
									計	14	5
	有機材料化学科(廃止)	4	41	3年次 5	174	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	応用化学科	17	7
									退職	1	1
									計	18	8
化学システム工学科(廃止)	4	35	3年次 5	150	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	化学物理工学科	17	7	
								計	17	7	
機械システム工学科(廃止)	4	116	3年次 16	496	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	生体医用システム工学科	2	1	
								化学物理工学科	2	1	
								機械システム工学科	31	13	
								計	35	15	
物理システム工学科(廃止)	4	56	-	224	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	生体医用システム工学科	9	3	
								化学物理工学科	10	4	
								計	19	7	
電気電子工学科(廃止)	4	88	3年次 20	392	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	生体医用システム工学科	5	3	
								化学物理工学科	3	1	
								知能情報システム工学科	22	7	
								計	30	11	
情報工学科(廃止)	4	62	3年次 8	264	学士(工学)	工学関係	平成16年 4月	知能情報システム工学科	25	9	
								計	25	9	

【備考欄】

平成31年4月

工学府(博士後期課程) 共同専攻の設置(平成30年3月意見伺い)
※構成大学:東京外国語大学大学院総合国際学研究科、東京農工大学大学院工学府、
電気通信大学大学院情報理工学研究科
共同サステイナビリティ研究専攻(4)

工学府(博士後期課程) 定員減
電子情報工学専攻(△4)

農学府 改組(平成30年4月事前伺い)
生物生産科学専攻(△27)
共生持続社会学専攻(△12)
応用生命化学専攻(△30)
生物制御科学専攻(△20)
環境資源物質科学専攻(△11) → 農学専攻(174)
物質循環環境科学専攻(△17)
自然環境保全学専攻(△19)
農業環境工学専攻(△10)
国際環境農学専攻(△28)
※平成31年4月募集停止

工学部 改組(平成30年4月事前伺い)
生命工学科 (△77) (3年次編入学定員△11) → 生命工学科 (81) (3年次編入学定員11)
応用分子化学科 (△46) (3年次編入学定員△5) 生体医用システム工学科 (56) (3年次編入学定員6)
有機材料化学科 (△41) (3年次編入学定員△5) 応用化学科 (81) (3年次編入学定員10)
化学システム工学科 (△35) (3年次編入学定員△5) → 化学物理工学科 (81) (3年次編入学定員7)
機械システム工学科 (△116) (3年次編入学定員△16) 機械システム工学科 (102) (3年次編入学定員16)
物理システム工学科 (△56) (3年次編入学定員△20) 知能情報システム工学科 (120) (3年次編入学定員20)
電気電子工学科 (△88) (3年次編入学定員△20)
情報工学科 (△62) (3年次編入学定員△8)
※平成31年4月募集停止 (3年次編入学定員は平成33年4月募集停止)

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
	校 舎 敷 地	運 動 場 用 地	237,007 m ²	0 m ²	0 m ²	237,007 m ²	46,341 m ²	
	小 計		283,348 m ²	0 m ²	0 m ²	283,348 m ²		
	そ の 他		180,899 m ²	0 m ²	0 m ²	180,899 m ²		
	合 計		464,247 m ²	0 m ²	0 m ²	464,247 m ²		
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
			131,288 m ² (131,288 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	131,288 m ² (131,288 m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体
	77室	45室	513室	10室 (補助職員3人)	0室 (補助職員0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			
		工学部			190 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を含む
		530,482 [176,338] (527,836 [176,074])	14,174 [7,038] (14,149 [7,030])	7,043 [6402] (7,043 [6,402])	2,992 (2,972)	0 (0)	0 (0)	
	計	530,482 [176,338] (527,836 [176,074])	14,174 [7,038] (14,149 [7,030])	7,043 [6402] (7,043 [6,402])	2,992 (2,972)	0 (0)	0 (0)	
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体
		6,907 m ²		897		544,889		
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体
		2,477 m ²		テニスコート 武道場 ゴルフ練習場ほか				

【既設学部等の状況】

大 学 の 名 称	国立大学法人 東京農工大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
【工学府】（博士前期課程）		340		940		1.04		〒184-8588 東京都小金井市中 町二丁目24番16号
生命工学専攻	2	58	-	116	博士（工学） 博士（学術）	1.06	平成16年度	
応用化学専攻	2	78	-	156	博士（工学） 博士（学術）	1.00	平成16年度	
機械システム工学専攻	2	70	-	140	博士（工学） 博士（学術）	1.04	平成16年度	
物理システム工学専攻	2	26	-	52	博士（工学） 博士（学術）	1.05	平成16年度	
電気電子工学専攻	2	66	-	132	博士（工学） 博士（学術）	1.05	平成16年度	
情報工学専攻	2	42	-	84	博士（工学） 博士（学術）	1.07	平成18年度	
【工学府】（博士後期課程）		60		180		1.02		
生命工学専攻	3	14	-	42	博士（工学） 博士（学術）	0.97	平成16年度	
応用化学専攻	3	14	-	42	博士（工学） 博士（学術）	1.14	平成16年度	
機械システム工学専攻	3	13	-	39	博士（工学） 博士（学術）	1.32	平成16年度	
電子情報工学専攻	3	19	-	57	博士（工学） 博士（学術）	0.75	平成18年度	
【工学府】（専門職学位課程）		40		80		0.92		
産業技術専攻	2	40	-	80	技術経営修士 （専門職）	0.92	平成23年度	

既設 大学 等 の 状 況	【農学府】 (修士課程)		174		348		1.14		〒183-8509 東京都府中市幸町 三丁目5番8号
	生物生産科学専攻	2	27	-	54	修士(農学) 修士(学術)	1.24	平成16年度	
	共生持続社会学専攻	2	12	-	24	修士(農学) 修士(学術)	0.91	平成16年度	
	応用生命化学専攻	2	30	-	60	修士(農学) 修士(学術)	1.30	平成16年度	
	生物制御科学専攻	2	20	-	40	修士(農学) 修士(学術)	1.17	平成16年度	
	環境資源物質科学専攻	2	11	-	22	修士(農学) 修士(学術)	1.76	平成16年度	
	物質循環環境科学専攻	2	17	-	34	修士(農学) 修士(学術)	0.99	平成16年度	
	自然環境保全学専攻	2	19	-	38	修士(農学) 修士(学術)	1.04	平成16年度	
	農業環境工学専攻	2	10	-	20	修士(農学) 修士(学術)	0.80	平成16年度	
	国際環境農学専攻	2	28	-	56	修士(農学) 修士(学術)	1.01	平成16年度	
	【農学府】 (博士課程)		10		10		1.10		
	共同獣医学専攻	4	10	-	10	博士(獣医学)	1.10	平成30年度	
	【生物システム応用科学府】 (博士前期課程)	2	59		118		1.09		〒184-8588 東京都小金井市中 町二丁目24番16号
	生物機能システム科学専攻	2	59	-	118	博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	1.09	平成27年度	
	生物システム応用科学専攻	-	-	-	-	博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	-	-	平成27年度より 募集停止
	【生物システム応用科学府】 (博士後期課程)		18		54		0.98		
	生物機能システム科学専攻	3	12	-	36	博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	1.16	平成27年度	
	共同先進健康科学専攻	3	6		18	博士(生命科学)	0.60	平成22年度	
	生物システム応用科学専攻	-	-	-	-	博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	-	-	平成27年度より 募集停止
	【生物システム応用科学府】 (一貫制博士課程)	5	10		40		1.10		
食料エネルギーシステム 科学専攻	5	10	-	40	博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	1.10	平成27年度		
【連合農学研究科】 (博士課程)		45		135		0.98		〒183-8509 東京都府中市幸町 三丁目5番8号	
生物生産科学専攻	3	15	-	45	博士(農学) 博士(学術)	1.19	平成19年度		
応用生命科学専攻	3	10	-	30	博士(農学) 博士(学術)	0.36	平成19年度		
環境資源共生科学専攻	3	10	-	30	博士(農学) 博士(学術)	0.96	平成19年度		
農業環境工学専攻	3	4	-	12	博士(農学) 博士(学術)	1.75	平成19年度		
農林共生社会科学専攻	3	6	-	18	博士(農学) 博士(学術)	1.00	平成19年度		
【農学部】		300		1,270		1.08		〒183-8509 東京都府中市幸町 三丁目5番8号	
生物生産学科	4	57	-	228	学士(農学)	1.05	平成16年度		
応用生物科学科	4	71	-	284	学士(農学)	1.09	平成16年度		

環境資源科学科	4	61	-	244	学士（農学）	1. 03	平成16年度	
地域生態システム学科	4	76	-	304	学士（農学）	1. 05	平成16年度	
共同獣医学科	6	35	-	210	学士（獣医学）	1. 11	平成24年度	
獣医学科	-	-	-	-	学士（獣医学）	-	-	平成24年度より 募集停止
【工学部】		521	3年次 70	2,224		1. 04		〒184-8588 東京都小金井市中 町二丁目24番16号
生命工学科	4	77	11	330	学士（工学）	1. 03	平成16年度	
応用分子化学科	4	46	5	194	学士（工学）	1. 02	平成16年度	
有機材料化学科	4	41	5	174	学士（工学）	1. 08	平成16年度	
化学システム工学科	4	35	5	150	学士（工学）	1. 02	平成16年度	
機械システム工学科	4	116	16	496	学士（工学）	1. 06	平成16年度	
物理システム工学科	4	56	-	224	学士（工学）	1. 06	平成16年度	
電気電子工学科	4	88	20	392	学士（工学）	1. 02	平成16年度	
情報工学科	4	62	8	264	学士（工学）	1. 03	平成16年度	
附属施設の概要	<p>名称：教員評価機構</p> <p>目的：教員の教育・研究力の厳格かつ適正な評価を行い、教員が教育・研究力の強みを伸ばし、弱みを克服するための指針を示すことで、全学的な教育・研究水準の向上を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号</p> <p>設置年月：平成25年4月</p> <p>規模等：建物212㎡</p> <p>名称：学位審査機構</p> <p>目的：学位の授与に関し、その質を保証することを目的とする。</p> <p>所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号</p> <p>設置年月：平成26年4月</p> <p>規模等：建物189㎡</p> <p>名称：グローバル教育院</p> <p>目的：国際教育交流に関する全学的事業の推進及び支援、教養教育の企画及び実施、入試戦略及び支援、その他全学に係る教育に関する業務を実施するための組織として、東京農工大学での教育活動を通して、農学又は工学の専門性を持ち、教養豊かで国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする</p> <p>所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号、東京都小金井市中町二丁目24番16号</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：建物1,471㎡</p> <p>名称：図書館</p> <p>目的：図書の貸出、文献複写等のサービスの提供により、重要な学術情報基盤として大学の教育研究活動を支援することを目的とする。</p> <p>所在地：府中図書館・東京都府中市幸町三丁目5番8号 小金井図書館・東京都小金井市中町二丁目24番16号</p> <p>設置年月：昭和24年4月</p> <p>規模等：府中図書館：建物3,428㎡、小金井図書館：建物3,479㎡</p> <p>名称：先端産学連携研究推進センター</p>							

目的：大学の研究理念を実現するため、研究戦略の立案及び研究内容を理解しつつ研究マネジメント、研究資金調達、知財管理及び活用を行うことにより研究者を支援することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成25年4月

規模等：建物4,537㎡

名称：保健管理センター

目的：大学の学生、役員及び職員の保健管理に関する専門的業務を遂行することを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号・東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成12年4月

規模等：建物526㎡

名称：総合情報メディアセンター

目的：大学における情報処理設備及び情報ネットワークを一元的かつ効率的に運用し、本学における先端科学技術研究、情報処理基礎教育、学術情報サービス、高速度情報通信及び事務処理に必要な高度情報処理機能を提供し、もって教育研究の進展に資することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成14年4月

規模等：建物1,629㎡

名称：学術研究支援総合センター

目的：学術研究の総合的な推進支援機能の整備・充実に図り、各種大型機器等の基盤的設備の計画的かつ集中的管理・共同利用、遺伝子組換え実験・遺伝子組換え生物等の使用等により生ずる生物多様性影響の防止に関する安全管理及び分析技術・遺伝子ゲノム科学技術の研究開発等を行い、もって教育研究の進展に資することを目的とする。

所在地：遺伝子実験施設・東京都府中市幸町三丁目5番8号

機器分析施設・東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成20年4月

規模等：遺伝子実験施設・建物1,640㎡ 機器分析施設・524㎡

名称：科学博物館

目的：教育研究分野及びその他科学の分野に関する資料の収集、保管、展示、公開及び調査研究並びに学芸員課程の運営を行うとともに、本学の教育研究活動及び社会貢献活動に寄与することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成20年4月

規模等：建物3,008㎡

名称：環境安全管理センター

目的：環境安全衛生活動を円滑かつ確実に推進するため、環境安全衛生にかかる業務を集約し、また、指示、命令及び情報伝達を明確にすることにより、本学における環境安全レベルの向上に資することを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号

設置年月：平成20年4月

規模等：建物212㎡

名称：放射線研究室

目的：放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律第3条の規定に基づき、使用の許可を受けた本学の農学部事業所及び工学部事業所について、本学の教育研究施設としての役割を果たし、もって放射性同位元素等を使用して行う教育研究を支援することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成20年4月

規模等：建物307㎡

名称：グローバルイノベーション研究院女性未来育成機構

目的：男女共同参画推進室及び関係部局の協力の下、全学的な視点から女性研究者が活躍できる環境整備等を推進するとともに、女性の視点に基づいた安全・安心・健康に貢献する先端的项目研究を推進し、もって本学の教育研究活動の進展に資することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成28年4月

規模等：建物17㎡

名称：グローバルイノベーション研究院イノベーション推進機構

目的：全学的な視点から国際社会に新たな価値を創造・提案し、その価値を社会に定着させることができる実践力を持ったイノベーション人材の育成を行い、もって本学の教育研究活動の進展に資することを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号

設置年月：平成28年4月

規模等：建物199㎡

名称：グローバルイノベーション研究院テニュアトラック推進機構

目的：全学的な視点から若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、テニュアトラック制度の推進を図ることを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号

設置年月：平成28年4月

規模等：建物199㎡

名称：環境リーダー育成センター

目的：国際的な視野を持ち広くアジア・アフリカ地域の環境問題の解決に貢献し得る環境リーダー人材を育成することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成21年4月

規模等：建物189㎡

名称：農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

目的：自然林、二次林、農地、都市緑地などの多様なフィールドを有機的に結びつけ、環境科学、生物生産科学、森林科学、生態学、獣医学など広い視野と手法の融合によって、食料・資源問題の解決、資源循環型社会の構築を図るための教育・研究を推進する。

所在地：(フィールドミュージアム府中)東京都府中市幸町三丁目5番8号

(フィールドミュージアム本町)東京都府中市本町三丁目7番7号

(フィールドミュージアム津久井)神奈川県相模原市緑区長竹志田口3657番地1

(フィールドミュージアム多摩丘陵)東京都八王子市堀之内1528

(フィールドミュージアム草木)群馬県みどり市東町草木1582

(フィールドミュージアム大谷山)群馬県みどり市東町神戸277

(フィールドミュージアム唐沢山)栃木県佐野市栃本町1

(フィールドミュージアム秩父)埼玉県秩父市大滝桐平1840番地2

設置年月：平成12年4月

規模等：土地9,433,008㎡、建物11,563㎡

名称：農学部附属動物医療センター

目的：東京農工大学農学部の附属動物病院として、学生に対する獣医学教育の場として、大学の研究としての場として設立され、多摩地域の獣医学としての高度医療を担う病院として位置づけられている。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成20年7月

規模等：建物2,601㎡

名称：農学部附属硬蛋白質利用研究施設

目的：皮革産業と革製品産業全体に対して学術的、技術的支援、ならびに人材育成に寄与しうる研究・教育を行うと共に、原料皮が畜産と肉生産の副産物として重要な資源であるという見地に立って、その主成分である皮（硬）タンパク質資源の総合的高度利用をめざす研究・教育を行うと共に、硬タンパク質の構造と機能の解析を通じて新しい生体材料の開発と生物機能の解明およびこれらの利用に寄与する研究教育を行う。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：昭和51年4月

規模等：建物815㎡

名称：農学部附属フロンティア農学教育研究センター

目的：フロンティア農学の研究展開とそれからの学部教育及び大学院教育への活用を促進することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成20年7月

規模等：建物867㎡

名称：農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター

目的：感染症の原因ウイルスや細菌等の感染ルートの解明などの防疫に関する研究及び経済的な側面からの感染症対策に関する研究機能を持ち、さらに国際的視野に立って、日本国内及び海外における口蹄疫等の家畜感染症防疫研究教育を行うことを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成23年4月

規模等：建物142㎡

名称：工学部附属ものづくり創造工学センター

目的：学生がものづくりに関する実験・実習を行う場であり、研究活動に必要な装置の製作について協力と支援を行う施設として、学内の研究教育活動を支える基礎的役割を担う。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成19年4月

規模等：建物750㎡